

# 上早川地区 中学生以上住民アンケート

## 結果報告書

令和2年1月17日

### 目次

1	アンケートの概要	1
(1)	アンケート調査の趣旨	1
(2)	実施主体と調査対象、調査時期	1
(3)	配布数および回収数	1
2	結果報告	2
(1)	回答者の年齢・性別・出身・居住地域	2
(2)	回答者の職業と暮らし満足度	4
(3)	情報源・SNS利用状況	6
(4)	行事参加状況	7
(5)	地域行事・活動に対する認識	9
(6)	日常生活での不安感、困りごと	10
(7)	若者世代が今後も上早川地区に住み続けるか	13
(8)	上早川地区のぜひ紹介したいスポット	16
(9)	下早川との合併	18
(10)	地域づくりプランの4つの事業について	19
(11)	上早川地区の活性化についての自由回答	29
3	まとめと分析	32
(1)	アンケート結果の整理と分析	32
(2)	全体を通して	36



# 1 アンケートの概要

## (1) アンケート調査の趣旨

上早川地区では平成 27年(2015年)8月に地域づくりプランを策定し、実施して5年が過ぎようとしている。これまでの活動を振り返り、今後のより一層の効果的な活動を目指していきたい。そのための指針となる「ヒント」を求めることと同時に地域づくりプランにとどまらず、上早川地区の住民みんなで力を合わせて活動していくための道しるべとするべく、アンケートを実施することとした。

対象は、幅広く地域住民の意見を集め、地域づくりプランの内容に反映するべく、中学生以上の全住民アンケートを実施することとした。

集めた結果データにより、地域住民の意見・要望を把握し、また、地域の問題点、課題等を整理し見える化する。それをもとに、広く地域住民で共有し、行動につなげることを趣旨とする。

## (2) 実施主体と調査対象、調査時期

本アンケートは、上早川地域振興会および、これを母体とした地域づくりプラン実行委員会により実施した。アンケートの対象は、上記(1)の趣旨の通り、上早川地区の中学生以上の全員とさせていただいた。

また、アンケート票は、各区長、嘱託員のご協力のもと、令和元年10月後半に配布し11月10日前後にかけて回収した。

## (3) 配布数および回収数

配布数は482部であり、上早川地区全域の13歳中学生以上の住民に1部ずつ配布した。有効回答数は437部で、90.7%のきわめて高い回収率となった。

表 1 地区ごとのアンケート票配布数と回収数

地区	配布数	回収数
北部	129	122
中部	105	97
東山	215	191
西山	33	27
合計	482	437

回収率 90.7%

## 2 結果報告

本章では、アンケートの各問の集計結果を見ていく。

※アンケート票の全データ、自由回答欄の全記述内容については、コンピューターの表形式で整理した集計データファイルおよび「結果報告書\_記述式回答一覧」をご確認ください。

### (1) 回答者の年齢・性別・出身・居住地域

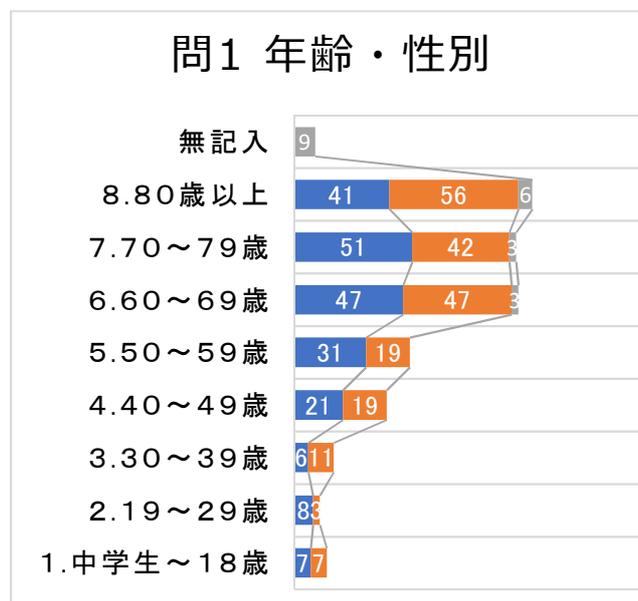
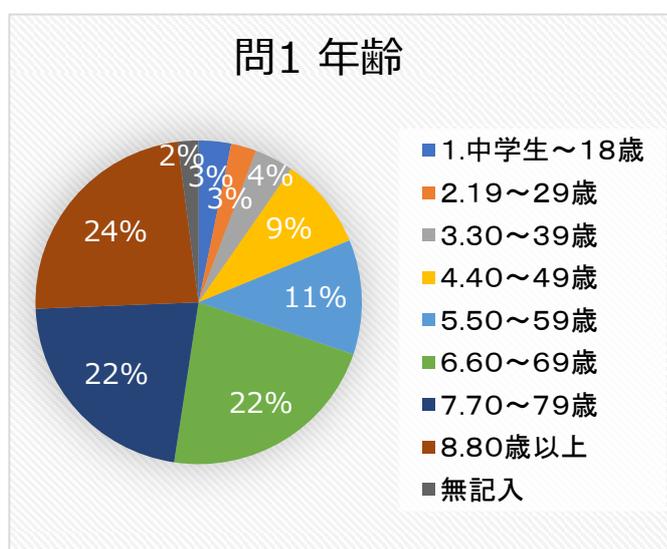
まずはアンケート回答者の基本構成(年齢、性別、居住地域)について見ていく。

#### ① 回答者の年齢・性別 (問1：単回答)

問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるものに○をつけてください。  
(令和元年10月1日現在)

年齢、性別は以下の通りである。回答数のうち60歳以上の住民で約7割を占める。50代から下は、若い世代にいくほどに人口減少が著しい。

問1-1 年齢	1. 男	2. 女	無回答	総計
1.中学生～18歳	7	7	0	14
2.19～29歳	8	3	0	11
3.30～39歳	6	11	0	17
4.40～49歳	21	19	0	40
5.50～59歳	31	19	0	50
6.60～69歳	47	47	3	97
7.70～79歳	51	42	3	96
8.80歳以上	41	56	6	103
無記入	0	0	9	9
総計	212	204	21	437



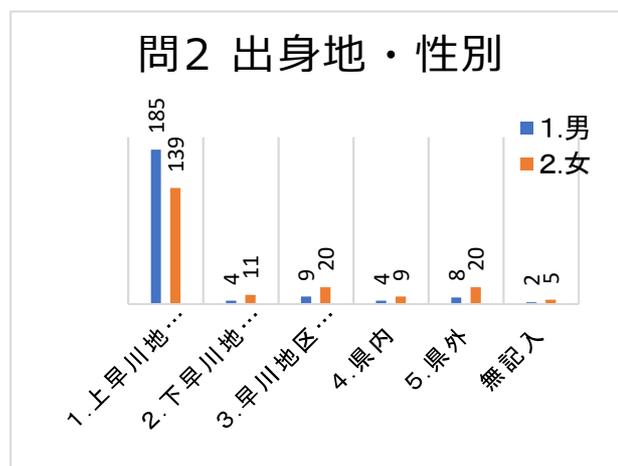
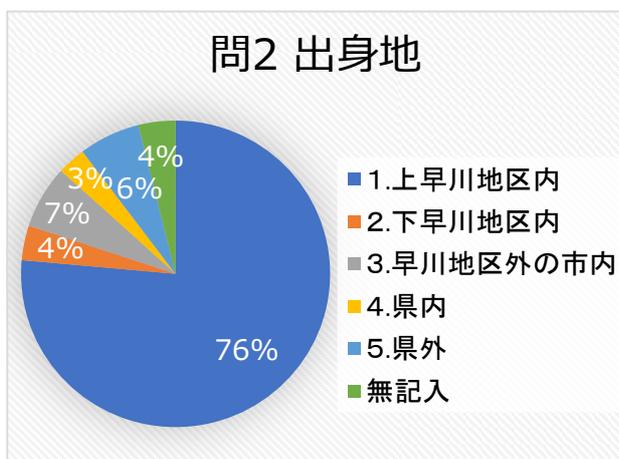
## ② 回答者の出身地（問2：単回答）

問2 あなたの出身地はどこですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

問2 出身地	人数
1.上早川地区内	334
2.下早川地区内	16
3.早川地区外の市内	29
4.県内	13
5.県外	28
無記入	17
総計	437

上早川地区を出身地とされている方が76%という、「生まれも育ちも上早川」という方の割合が、市内他地区と比較しても非常に高くなっている。

性別では、男性では87%、女性でも68%と、いずれも高く、地域内のつながりが強い住民性が見える。一方、人的交流の地域内完結性が高く、広く他地域から新しい考えや情報を取得し、時代の流れに取り残されないための対応が、他地区以上に重要事項であろう。

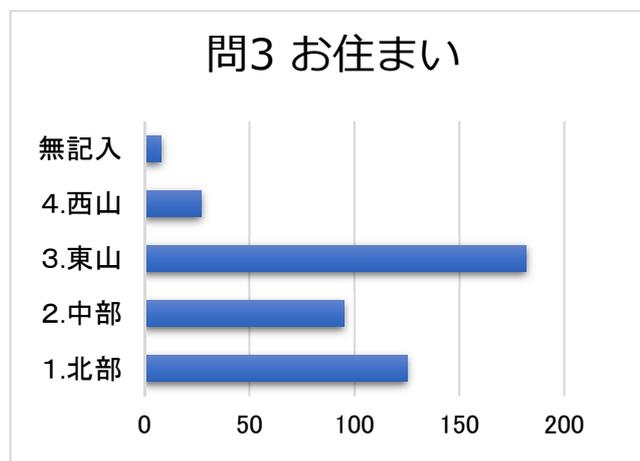


## ③ 回答者の現在の居住地区（問3：単回答）

問3 あなたの住んでいる地区はどこですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

4地区での人数の差が非常に大きくなっている。公民館の支館構成としてもバランスが良いとは言えない。

問3 お住まい	人数
1.北部	125
2.中部	95
3.東山	182
4.西山	27
無記入	8
総計	437



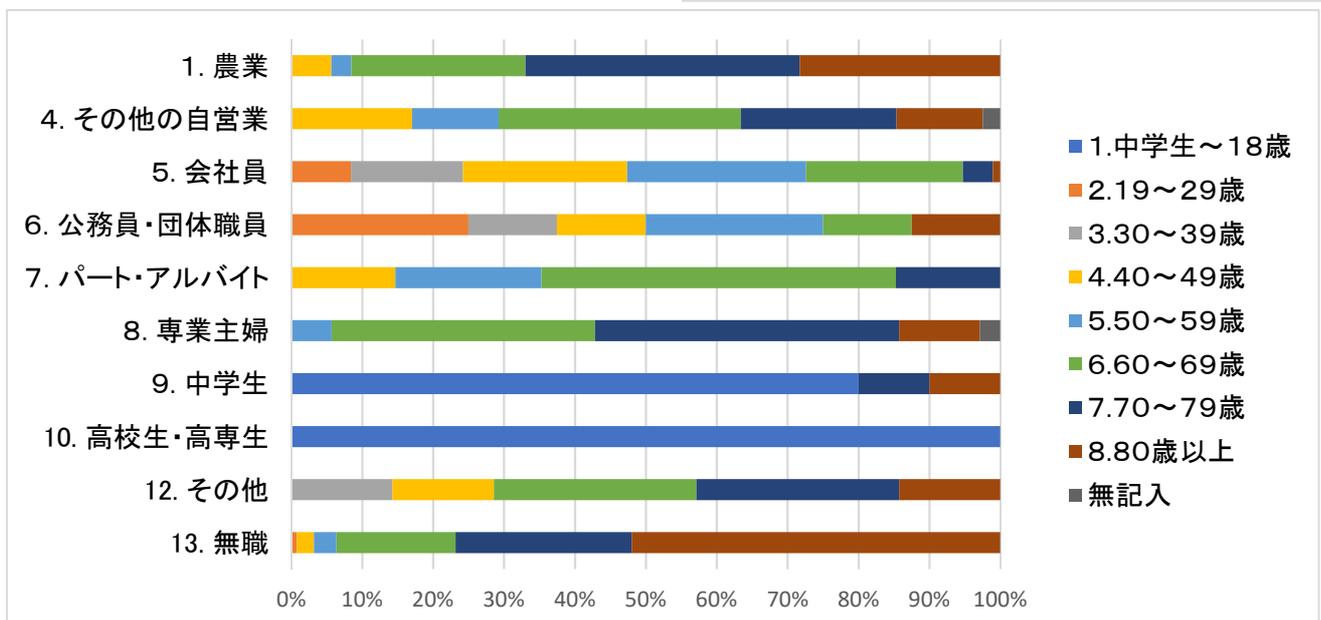
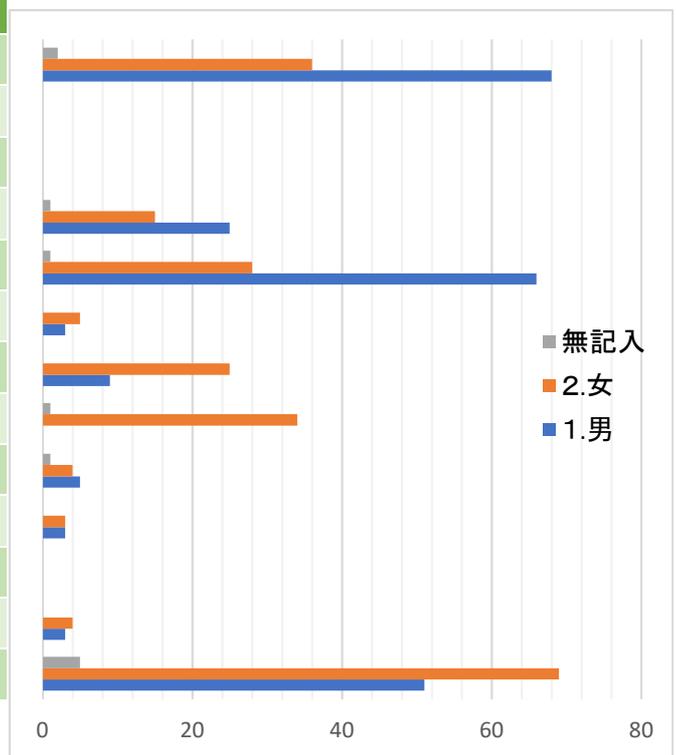
## (2) 回答者の職業と暮らし満足度

### ① 回答者の職業（問4：複数回答）

問4 あなたの仕事又は学業にあてはまるもの全てに○をつけてください。

回答者の職業を見ていく。市内他農村地帯(西海、根知、下早川)や他市町村では、最も多い職業は「会社員」「無職」であり、3番目に(1、2番目の半数程度で)「農業」が出てくる事が多い。上早川地区の「農業」の割合は、現代農村地帯としても驚異的な高い割合であり、全国的にも非常に農業に特化した地域といえる。一方、農業従事者は60歳以上で9割以上を占め、その中でも70歳以上が65%となっており、著しく高齢化している。

問4 現在の仕事	人数
1. 農業	106
2. 林業	0
3. 漁業	0
4. その他の自営業	41
5. 会社員	95
6. 公務員・団体職員	8
7. パート・アルバイト	34
8. 専業主婦	35
9. 中学生	10
10. 高校生・高専生	6
11. 大学生・短大生・専門学校生	0
12. その他	7
13. 無職	125



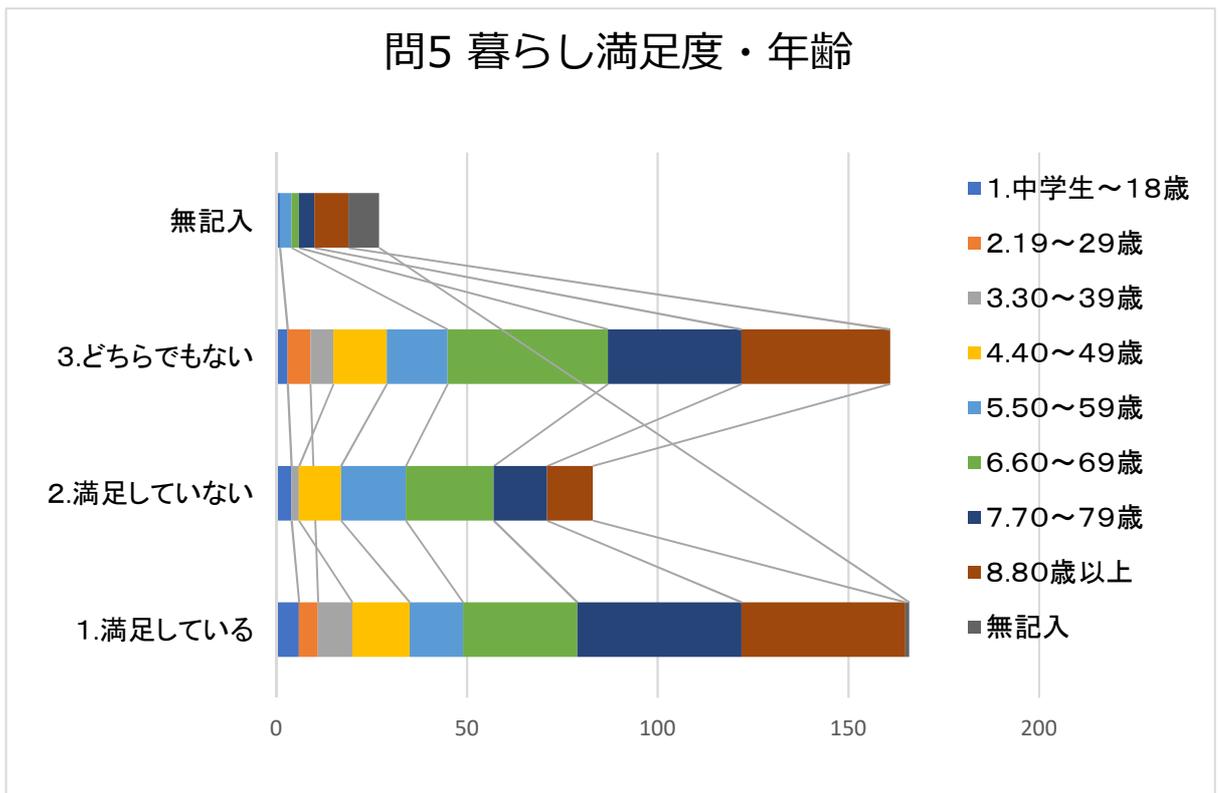
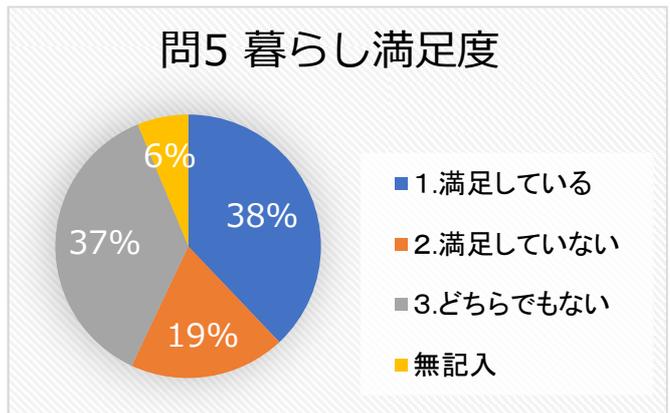
## ② 暮らし満足度（問5：単回答）

問5 あなたは、ご自身の暮らしに満足していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「満足している」割合が、「満足していない」割合の2倍となった。

世代別にみると、「50～59歳」の世代のみ「満足していない」割合の方が若干高く、他の世代ではすべて「満足している」割合が高い。

問5 暮らし満足度	人数
1.満足している	166
2.満足していない	83
3.どちらでもない	161
無記入	27
総計	437



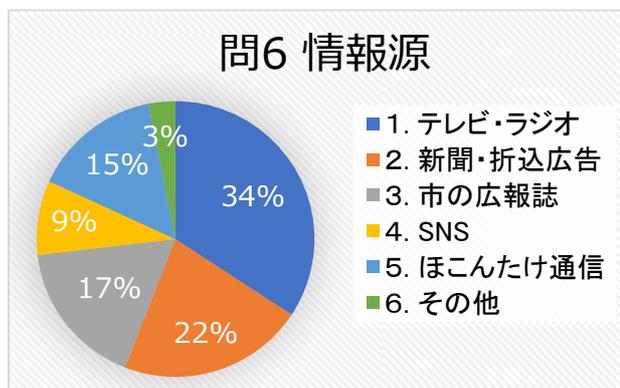
### (3) 情報源・SNS 利用状況

#### ① 情報源（問6：複数回答）

問6 あなたの情報源は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

1番から3番までは、順当な結果だと思われるが、上早川地区の広報誌である「ほこんたけ通信」が健闘している。SNSも約1割を占めており、今後も伸びると思われる。

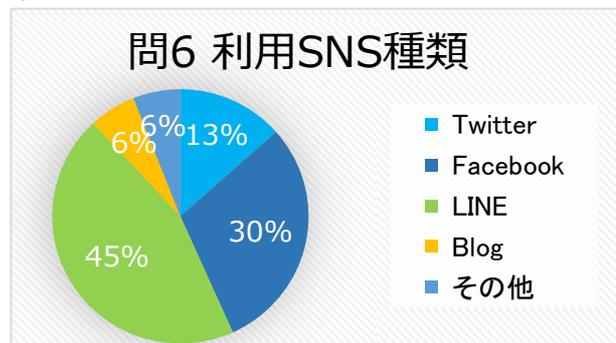
問6 情報源	人数
1. テレビ・ラジオ	374
2. 新聞・折込広告	236
3. 市の広報誌	188
4. SNS	95
5. ほこんたけ通信	164
6. その他	34



#### ② SNS 利用種類（問6：複数回答）

こちらも順当な結果だと思われる。上早川地区の情報発信手段として、これらのSNSを活用することは今後避けて通れないであろう。

問6 情報源 SNS 種類	人数
Twitter	9
Facebook	20
LINE	30
Blog	4
その他	4



#### ③ 情報その他（問6：自由回答）

インターネット系の回答が多かったが、個性的な回答も少なくなかった。

「情報源」として「人」をあげる回答が数件あり、大切なことに気づかされる。

「集落の広報」との回答もあった。集落によっては毎月必要な情報を全世帯に配布しているところもある。地域の情報をみんなで共有するより良い方法をぜひ模索していただきたい。

No.	問6 情報源 その他(一部抜粋・集約)
1	スマホ、PCでのインターネット(google、ヤフー、ユーチューブ、メール等)
2	おくやみ通信
3	雑誌
4	仕事仲間、近所の人、友人とのコミュニケーション
5	市の安心メール
6	集落の広報
7	無線

## (4) 行事参加状況

### ① 行事参加の状況（問7：単回答）

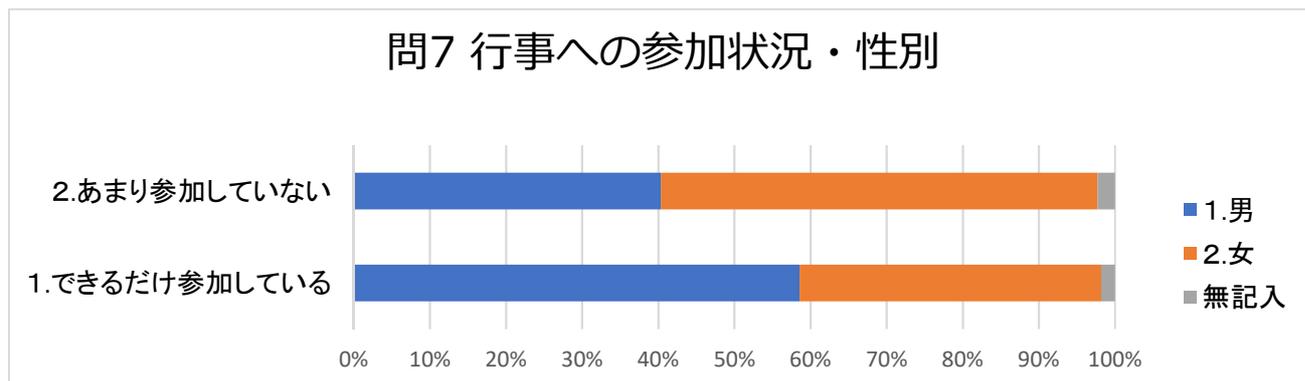
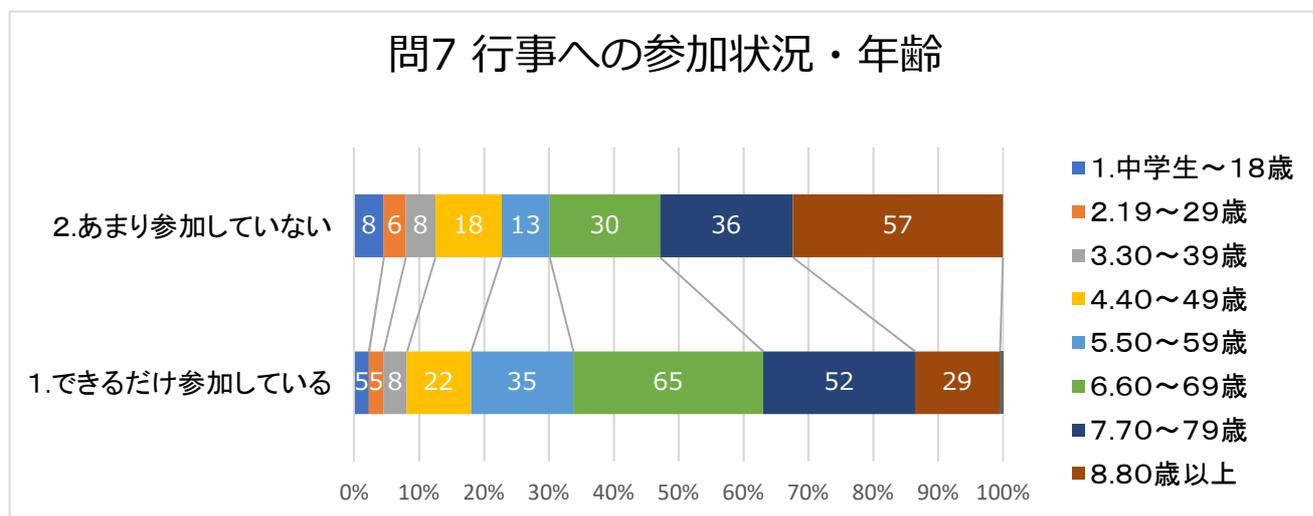
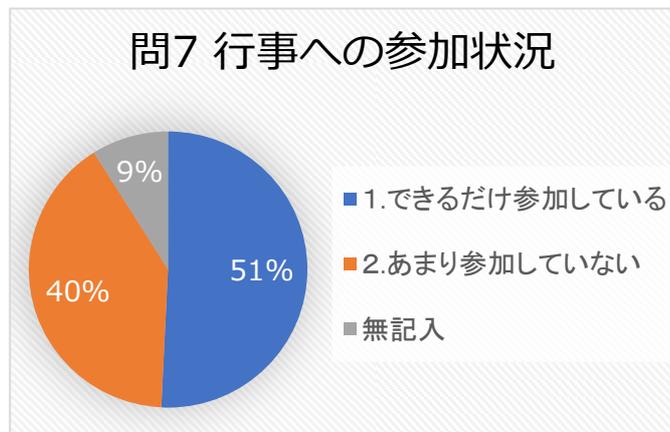
問7 上早川地区では各集落や公民館等で多様な活動や行事を行っています。あなたは参加していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「できるだけ参加している」が「あまり参加していない」を上回る結果となった。

世代別では若い世代(中学生～29歳)と80歳以上の高齢世代で「参加していない」割合が多く、40台～70台では「できるだけ参加している」割合が高くなる。

また、男性より女性のほうが参加していない傾向が強いという結果になっているが、年齢別、性別を組み合わせると、特に子育て世代である30～50代の女性において「あまり参加していない」傾向が強いことがうかがえる。

問7 行事への参加状況	人数
1.できるだけ参加している	222
2.あまり参加していない	176
無記入	39
総計	437



## ② 行事不参加の理由（問 7-2：自由回答）

「あまり参加していない」と回答した方の75%から理由を記入していただいている。

中学生～18歳では、学校活動により参加が難しいとの意見が半数を占める。

19歳～60代は主に働いている世代であり、仕事が休めないためとの理由が多数を占めている。高齢世代では、心身ともに移動して行事に参加することが大変になっていることがうかがえる。

また、世代にかかわらず「出かけるのが面倒」「人の多い所が苦手」という意見も数件見受けられた。各世代ともに「興味が無い」「つまらない」「行きたいと思う行事がない」といった回答が数件ずつ出ていたが、興味のある行事があれば参加する方がまだまだ増えるともいえる。以下、世代別の意見をいくつかあげる。

※以下一部抜粋。「結果報告書\_記述式回答一覧」をご参照ください。

No.	世代別 行事不参加の理由（一部抜粋）
1. 中学生～18歳	部活動があり時間がありません。 あることを知らなかった。 めんどくさいし、やっぱり休日はおそくまで寝てたい。
2. 19～29歳	予定が合わない 仕事で出られない 行動等が好きではない
3. 30～39歳	仕事のため 夜勤の為、昼間は休んでいる。
4. 40～49歳	同世代が少ない。だいたいメンバーが決まっているので入りにくい。 仕事と日程が重なるため 週末に色々な取り組みをしていて時間がない。 人と関わりたくない、人が苦手
5. 50～59歳	身体が不自由なため 生活のための作業、仕事で余裕がない 時間的に余裕がない
6. 60～69歳	仕事で時間がない。パートで働いているから。 高齢の家族がいるためあまり家を留守にできない 行事がほとんど日曜なので、休みがとれない。 自分の時間が欲しいから
7. 70～79歳	集落の活動や行事はできるだけ参加しますが、公民館等は、なかなか体がついていけない。 仕事が忙しい 体調不良、コミュニケーションが苦手
8. 80歳以上	耳目足腰が不自由でありあまり出歩かない 日頃あまり出ないので、出ることが嫌になる。 一人で行けない。歩いていけない。 忘れるから

## (5) 地域行事・活動に対する認識

### ① 既存行事、活動の改善点や新たな取り組み等（問8：自由回答）

問8 「新たに取り組みたい、又は改善してほしい活動・行事」がありましたら、理由も含めてお書きください。

世代で見ると、40～69歳の住民が、(人口比率からみても)積極的に回答している。

様々な意見が出されたが、注目されるのは全体の3割以上の方が「行事の負担」「役員の負担」を訴えていることである。これらの意見は働き盛りで地域活動もこなす世代から出されており、全体の6割以上が上記についてであった。行事では「かかし祭り」「真夏の運動会」への見直し要望が数件ずつあった。

※以下一部抜粋。「結果報告書\_記述式回答一覧」をご参照ください。

No.	地域行事・活動に対する認識（一部抜粋）
中学生～29歳	<p>全員で綱引き</p> <p>もっと若い人たちだけの交流行事を増やしては。でかいものを作って食べたい。スポーツイベント。</p> <p>上早川地区全体バーベキュー等</p>
30～69歳	<p>人口が減少しているのに、いろいろな団体、組織が多すぎ、まとまりなく感じる</p> <p>若い世代が家を出ていかず、結婚し、永住してもらえるような環境作り。</p> <p>取り組みたい活動は同世代で集まって行っているのではありません</p> <p>少し人口に応じた行事の数を考えていただきたい。行事数が減らない一方で人口が減っているので役員になる頻度が多いため体ひとつでは足りない。</p> <p>小さな子供がいます。子供も一緒に楽しめる行事があると参加しやすいです。大人のための募集でも保育ルームや遊び場があるとすごく良いです！！</p> <p>行事が多すぎる、役員になる人がいない、同じ人が役員になっている</p> <p>[かかし祭り]について。かかし製作には各集落がかなり厳しい状態なのではないでしょうか。見直す必要があると思います。(以降省略)</p> <p>真夏に行く運動会ですが、午前中のみとはいえ、年々気温が高くなり、参加者が少なくなっているため、他の季節にしてほしい。</p>
70～79歳	<p>進歩のあることではありませんが、現在の方法が”地”に合った行動、やり方ではないかと思います。</p> <p>皆さんが参加して、全員で初めからやってもらえたら良いと思います。参加しても中に溶け込めないです。</p> <p>何のイベントでも良い。上早川だけのみでなく、他の人たちを呼び込めるような、他にはない面白さのある考え方をしてみてもは？</p> <p>なし。今までで十分です。</p> <p>老人にも面白いことを。</p>

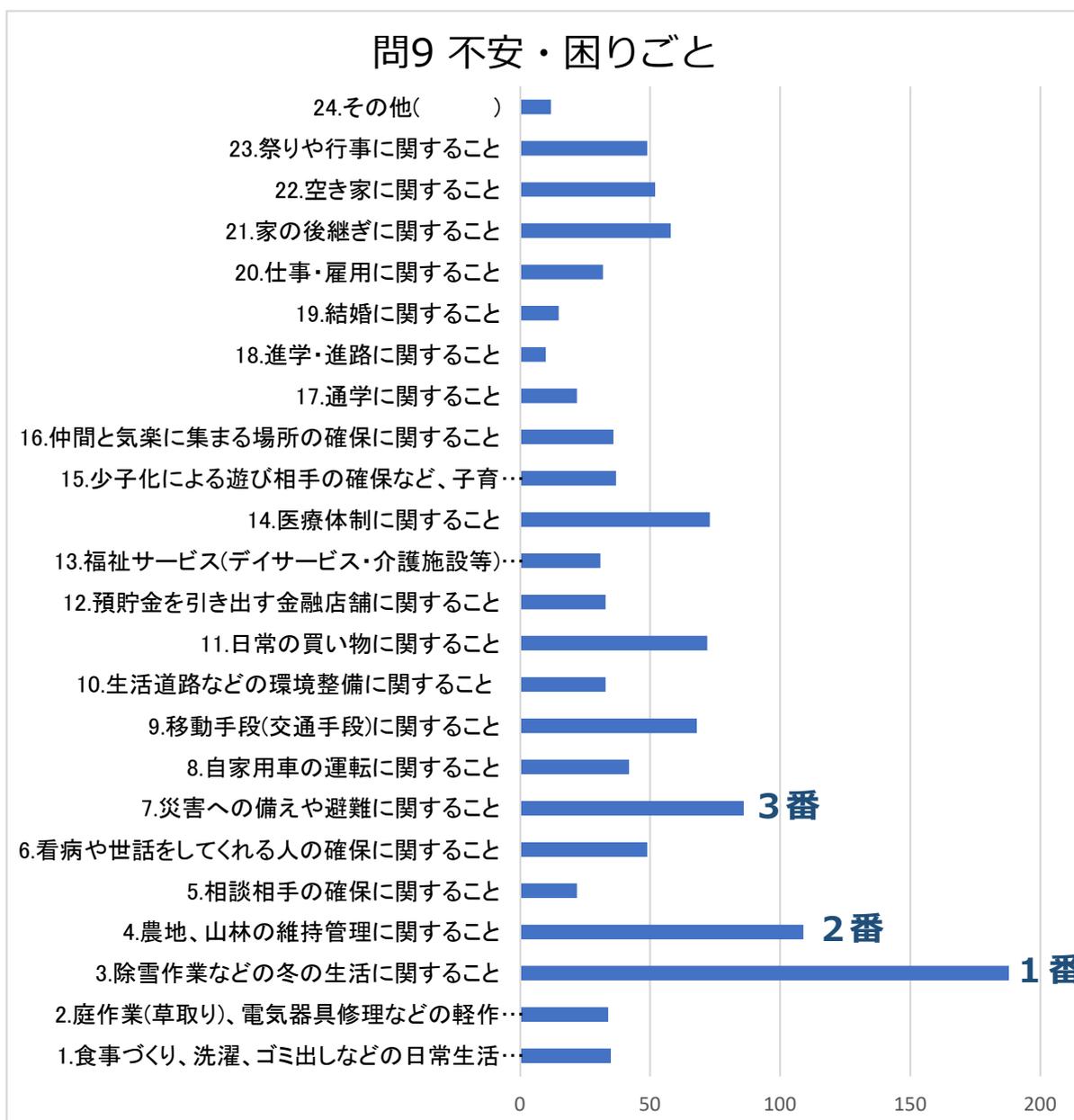
## (6) 日常生活での不安感、困りごと

### ① 日常生活での不安感、困りごと（問9：複数回答）

問9 上早川地区での日常生活について、「困っていること」や「不安に感じていること」はありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

ここでも上早川地域の特性が見えてくる結果となっている。

一番多いのは「3.除雪作業などの冬の生活に関すること」であり、2番に農地・山林の維持管理、3番に災害への備えや避難、についてとなった。市内他地域や他市中山間地では、一番目に除雪がくることは多いが、2, 3番目には医療や買い物への不安が出てくる。上早川地域ではトップ3が(しかも圧倒的な割合で)自然に関する事となった。もちろん、医療、買い物、福祉などについても不安は存在しており、それでもなお、自然に関する不安が非常に大きな割合を占めるのが上早川地域であるといえよう。



続いて年代別の割合を確認する。

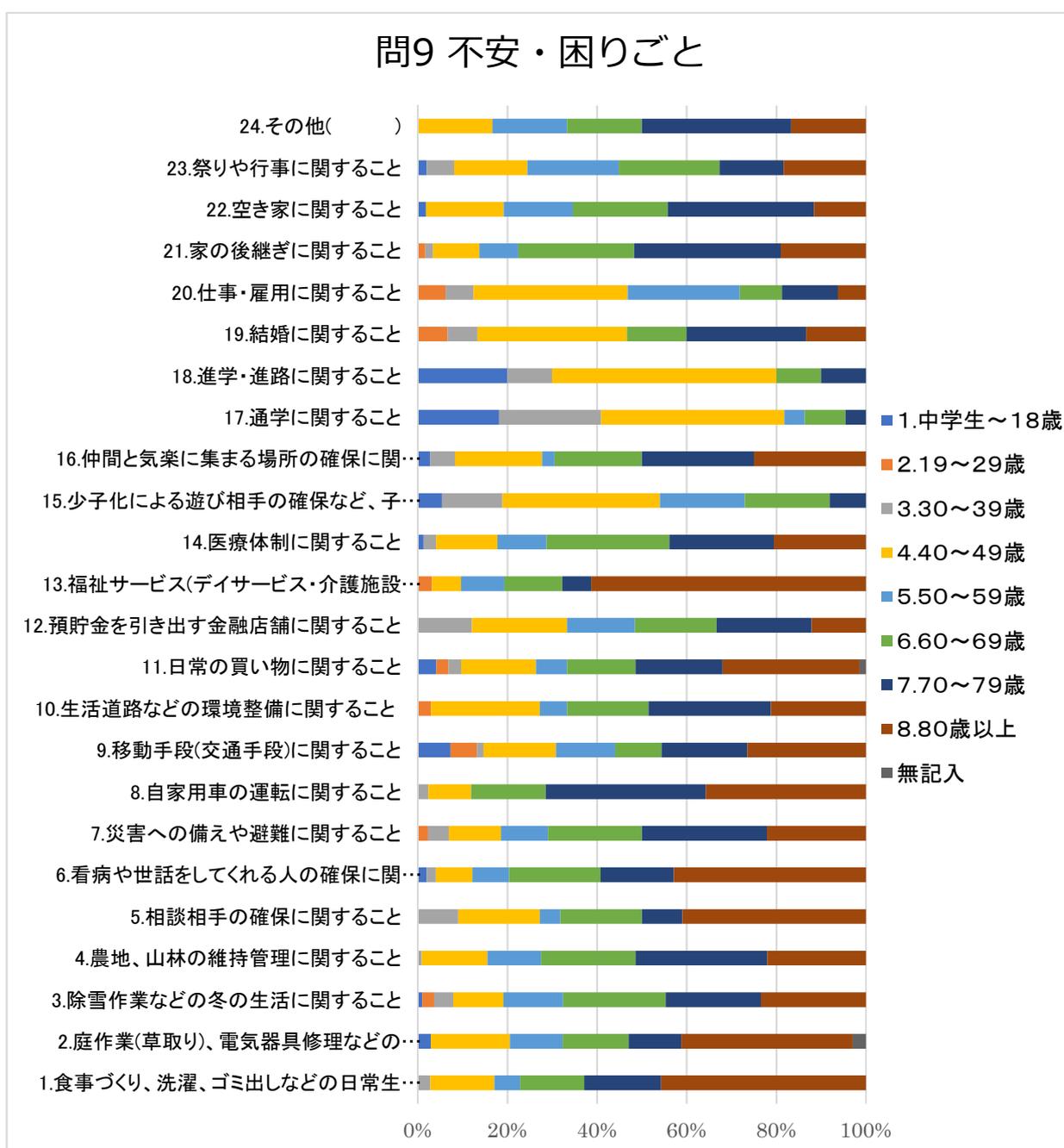
若い世代は移動手段(交通手段)の割合が多い。その中でも中学生～18歳の世代では、学校への通学の不便さに対する不安も多い。

30代、40代では、子育て環境(遊び相手、等)への不安が上位に入る。

注目されるのは、40代以降はすべての世代で1位に除雪などの冬の生活について、2位に農地山林の維持管理があがってくる。これは市内中山間地でも見られないほどの圧倒的な結果である。上早川地区にとって、雪と農地山林は身につまされる切実な不安であるといえる。

年齢が高くなるにつれ、医療、福祉系の不安の割合も大きくなっていく。

近年、制度上も高齢者の運転継続は難しくなってきており、車を運転できなくなったときの日常生活での影響は非常に大きい。80歳以上にて3位にあがる「日常の買い物に関する事」への不安は、今後ますます、急激に増加していくと思われる。



No.	世代別 上位の困りごと
1. 中学生～18歳	1位: 9.移動手段(交通手段)に関すること 2位:17.通学に関すること 3位:11.日常の買い物に関すること
2. 19～29歳	1位: 3.除雪作業などの冬の生活に関すること 2位: 9.移動手段(交通手段)に関すること 3位: 7.災害への備えや避難に関すること
3. 30～39歳	1位:3.除雪作業などの冬の生活に関すること 2位:15.少子化による遊び相手の確保など、子育て環境に関すること 3位:17.通学に関すること
4. 40～49歳	1位: 3.除雪作業などの冬の生活に関すること 2位: 4.農地、山林の維持管理に関すること 3位:15.少子化による遊び相手の確保など、子育て環境に関すること
5. 50～59歳	1位: 3.除雪作業などの冬の生活に関すること 2位: 4.農地、山林の維持管理に関すること 3位:23.祭りや行事に関すること
6. 60～69歳	1位: 3.除雪作業などの冬の生活に関すること 2位: 4.農地、山林の維持管理に関すること 3位:14.医療体制に関すること
7. 70～79歳	1位: 3.除雪作業などの冬の生活に関すること 2位: 4.農地、山林の維持管理に関すること 3位: 7.災害への備えや避難に関すること
8. 80歳以上	1位: 3.除雪作業などの冬の生活に関すること 2位: 4.農地、山林の維持管理に関すること 3位:11.日常の買い物に関すること

選択肢24番「その他」には10名から回答が寄せられた。問8の行事への意見と同様、ここでも全体の半数が行事や役員に関してであった。神社の維持管理や消防団の負担増に言及したものもあり、今後の具体的な課題検討のきっかけとなると思われる。

※「結果報告書」記述式回答一覧」参照のこと。

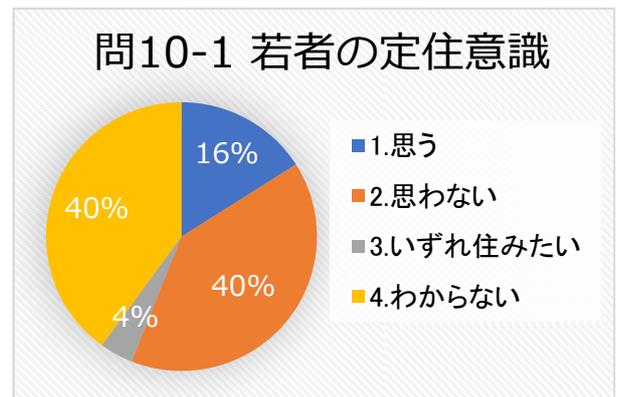
## (7) 若者世代が今後も上早川地区に住み続けるか

### ① 若い世代に「今後も住み続けたいですか？」(問 10 : 単回答)

問 10 中学生～29才の方にお聞きします。あなたは、「今後も上早川地区に住み続けたい」と思えますか。あてはまるもの1つに○をつけて理由もお書きください。

「思わない」が「思う」を上回っている。市内他中山間地では、いずれも「思う」のほうが多かった。大変厳しい結果だといえる。

問 10-1 若者の定住意識	人数
1.思う	4
2.思わない	10
3.いずれ住みたい	1
4.わからない	10
総計	25



※以下一部抜粋。「結果報告書\_記述式回答一覧」をご参照ください。

No.	若者の定住意識(一部抜粋)
1. 思う	自然が豊かで色々な人と交流が持てるので今後も住み続けたいと思います。 きれいだから
2. 思わない	繁華街まで遠い。交通費がかかる。(老後にはいいと思う)。 交通手段が少なく不便。近くにお店がないので、買い物に行くのが大変。 上早川地区よりもっと技術が発展しているところへ住みたい 何もないから 雪が多すぎて除雪が大変。 町に遠すぎる。 友達がいない。 交通環境が不便(都心部から遠い、雪が多い) 娯楽施設がない。生活コストが高い。 若い人が少ない どこ行くにも遠いし、近くに遊ぶ友達いないしとりあえず早く出たい。
3. いずれ住みたい	都会で金を稼いで、もどってきて、ゆっくり暮らしたい。
4. わからない	相手の仕事に関係したりするから 人口減少、小学校ないため もしかしたら今後、他県や市に住むかもしれないから。

## ② 18歳以下のお子さんを持つ方に「子供に住んでももらいたいですか？」

### (問 11 : 単回答)

問 11 18才以下のお子さんをお持ちの方にお聞きます。あなたは、「自分の子供に上早川地区に住んでももらいたい」と思いますか。あてはまるもの1つに○をつけて理由もお書きください。

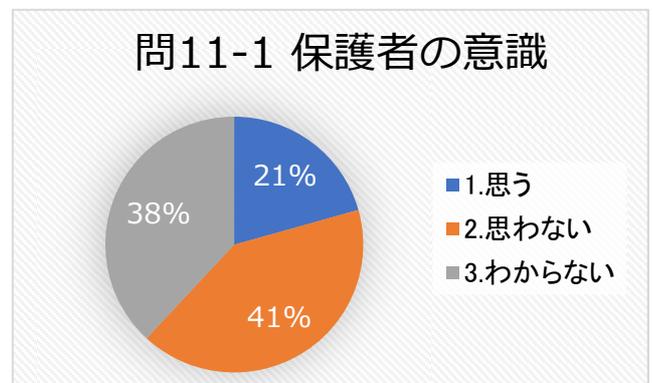
こちら「思わない」が「思う」を大幅に超えている。保護者が考えているそれぞれの理由は、見事に上早川地区の現状の魅力と課題そのものと重なっている。

課題について目を向けると、前述の若者の上早川地区に今後も住み続けたいと「思わない」理由と同様、すぐに解決できる課題は少ない。一つ一つの課題に向き合って、地道に解決に向かった活動を続けていくことが必要であろう。

コメントを一部抜粋して次ページに掲示する。(32件あり。詳細は集計データをご参照ください)

問 11-1 保護者の意識	人数
1.思う	13
2.思わない	26
3.わからない	24
総計	63

ださい)



※以下一部抜粋。「結果報告書\_記述式回答一覧」をご参照ください。

No.	若者の定住意識(一部抜粋)
1. 思う	<p>家の後継 良い所なので戻ってきてほしい。でも本人しだい。 住んでももらいたいと思うが本人の意向はどうか いつか良さがわかる 災害が少なく治安もいいので住みやすい。</p>
2. 思わない	<p>地区の将来性に不安を持っているから 衰退するだけで先が見通せない。魅力が無い！！ 住んでももらいたいという気持ちはあるが、高齢化が進んでいることを考えると、地区の役員等の負担が増してくることは間違いないので、強制はできないと思う。 職場がないから 冬の生活が大変です。 なんといっても冬場が大変だから、農業をやるにも機械が高いから到底無理に思う。 雪が多い、人がいない、店がない、老人ばかり近所に年の近いお友達がいないので子育てするには悩むところ。子供同士すぐ遊べない。</p>

### 3. わからない

過疎化が進んでいて生活水準を維持することが難しいから私は早川が好きで暮らしていますが、子どもがそんな親との暮らしでどのように感じるかは分かりませんし、今後どうするか、どうしたいのかは本人次第かと思いますので…

近くにいと良いが、仕事、結婚、地区の役員などを考えるとどうなのかなあと思う。

自然豊かな生活をしてもらいたいが、通勤、通学、雪住むか住まないかは子ども自身で決めることだと思っているので、親としての希望は特にない。

自由に生きて欲しい。

自然に囲まれていて良いのですが、病院やスーパーなどへ行くのに時間がかかる。

子どもたちが大人になる頃に上早川にどれだけの人口がいるかわからず、管理が大変なため。

進学、就職で短期間でも都会に出てほしい。糸魚川（田舎）に居続けると視野が狭いままの人間になってしまうかもしれない。住みたいか（帰ってきたいか）は子どもに任せます。

自分は上早川に魅力を感じてきたが子がそう思うかは自由（そう思える育て方はしたいと思う）

## (8) 上早川地区のぜひ紹介したいスポット

### ① 上早川地区の見どころ・スポット（場所）（問 12：自由回答）

問 12 全員の皆様にお聞きします。市外、県外、外国の人達には是非紹介したい上早川地区のスポット（場所）がありましたら、お書きください。

最も多かったのは全体の25%ほどを占めた「温泉・笹倉温泉」「自然の豊かさ・景観」であり、この2つで5割以上を占めている。続いて、「焼山」15%、不動山、とやの展望台、砂防公園と続く。他の中山間地では上位に出てくる「食べ物のおいしさ」は数パーセントの割合であった。上早川地区の米、野菜、山菜の素晴らしさは自他ともに認められていることであるが、これはあまりにも日常的で「普通のこと」になっており、「魅力」として外に発信する意識がまだまだ弱い可能性が高い。

焼山については自然の景観を上げる意見の中に山の美しさについての内容が多かったため、実際に焼山を意識している意見は非常に多いと思われる。

印象的なのは「鉾ヶ岳」「火打山」「放山」「不動山」「新田山」など、上早川地区にとって「山」は最も身近で強いつながりのある「魅力」「宝」であるのではないかと強く感じる。

他にも具体的で、魅力あふれる内容が多く、上早川地区には魅力が本当にたくさんあることを感じさせる結果であった。



※以下一部抜粋。「結果報告書\_記述式回答一覧」をご参照ください。

No.	問12 上早川の見どころ・紹介スポット（一部抜粋）
1.	藤光庵(ほのぼの観音)
2.	焼山、笹倉温泉、とやの展望台、砂防公園
3.	笹倉温泉、ホタルのいる田んぼや川、四季折々の自然の風景。地域の人たちの優しさ
4.	不動山から見る「海と山」素晴らしい！
5.	焼山、とや、温泉など。焼山には雷鳥がたくさんいる事。山に咲く花など。
6.	月の光があまりない時の星空
7.	笹倉温泉より上の景色。バーベキューができるようにしたり、公園にしてほしい。
8.	初雪の山々のすばらしさ
9.	公民館から見る焼山、火打ち、銚ヶ岳もとても良いです。(秋の紅葉)(冬景色)
10.	ホタルが見られる場所
11.	上早川はのんびりとした環境そのものがスポットになると思う。
12.	大平、中川原新田からのぞむ雄大な山々の景観！！特に晴天時の雪で覆われた山々。輝いていて最高一っ！！
13.	ふれあいの里から見る焼山。月不見の池。
14.	やげやまの里交流館(パンダ)
15.	みはらし台
16.	(上早川地区全部) 山、雪、自然
17.	温泉、不動山、耳の地藏様(岩山)
18.	焼山温泉なくなって何も無い
19.	火打山砂防公園。不動山からの全景。放山からの全景。
20.	新田山、焼山
21.	自然(食べ物、虫、魚)
22.	砂場旧善正寺跡地、しだれ桜、銀杏の大木、旧大門参道石段
23.	ふれあいセンターより見る焼山方面を最高の景色だと思います。公民館よりの景色も心が広がる光景だと思います。山、川、自然の光景良いです。
24.	大平で見た山、全体が良いと思う
25.	上早川自然の春夏秋初冬など
26.	焼山、ほこが岳、水、米
27.	不動山(景観・歴史)

## (9) 下早川との合併

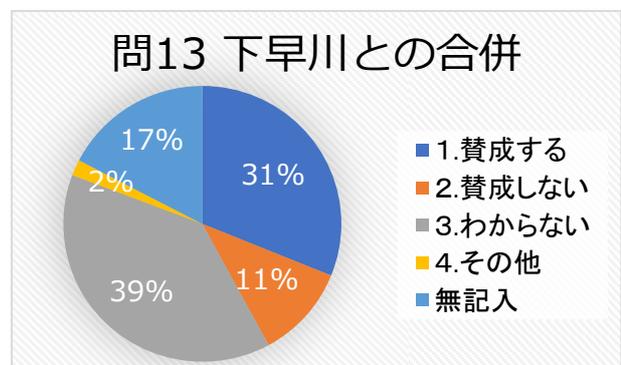
### ① 下早川との合併（問 13：単回答）

問 13 全員の皆様にお聞きします。もし将来に向けて、上早川・下早川両地区の合併統合の話が出たらどのように考えますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

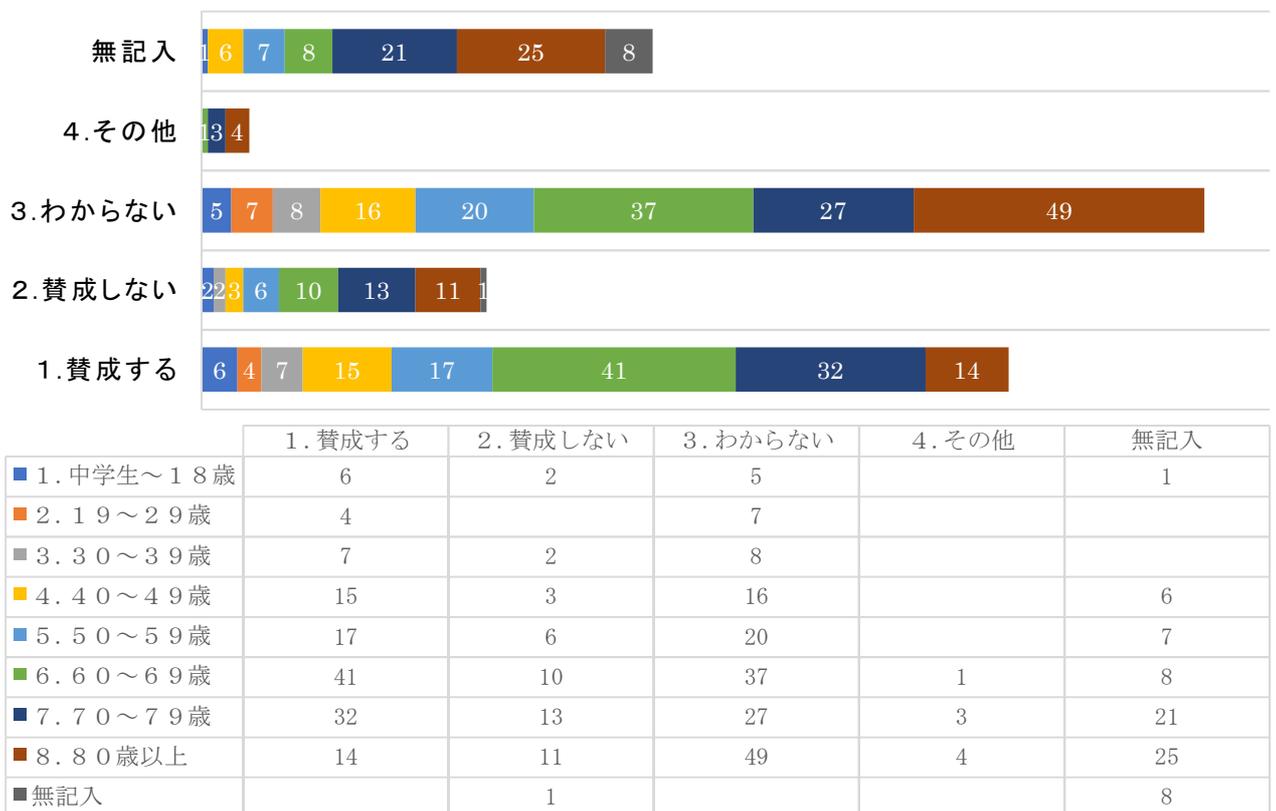
「賛成する」が「賛成しない」を大きく上回っている。これは世帯別にみても大きく変わることはなく、幅広い世代において合併統合については賛成が多いといえる。

同時に、「わからない」「無記入」が他の設問に比べて非常に多いことも特徴である。賛成・反対に明確な差がでる一方で、決めかねる方々がそれ以上に多い。今後、このテーマを扱っていく場合に、時間をかけてじっくり進めていく必要性を強く感じる。

問 13 下早川との合併	人数
1.賛成する	136
2.賛成しない	48
3.わからない	169
4.その他	8
無記入	76
総計	437



### 問13 下早川との合併・年齢



## (10) 地域づくりプランの4つの事業について

### ① 農産物販売所強化事業について

#### 【事業の目標】

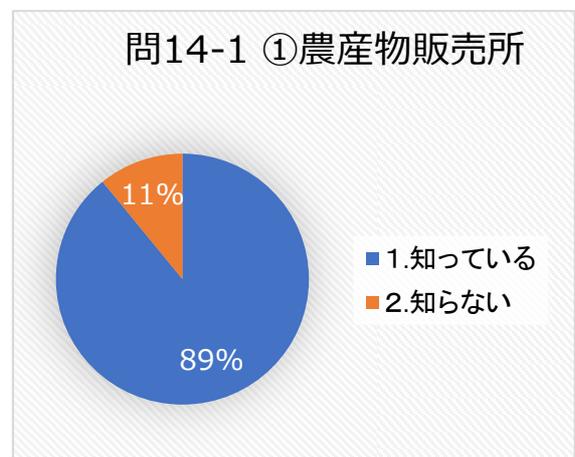
地区住民が収入を得て、生産拡大と活気のある直売所を運営したい。

#### a 農産物販売所を知っているか？行ったことがあるか？

焼山の里ふれあいセンターで農産物販売所を週4回（水・木・土・日）営業しています。  
問14-1 農産物販売所の営業をご存知ですか。

多くの住民にとって、農産物販売所が知られていることがわかる結果である。  
当事業にとって、最初のステップである認知度は十分な達成度であるといえるのではないか。

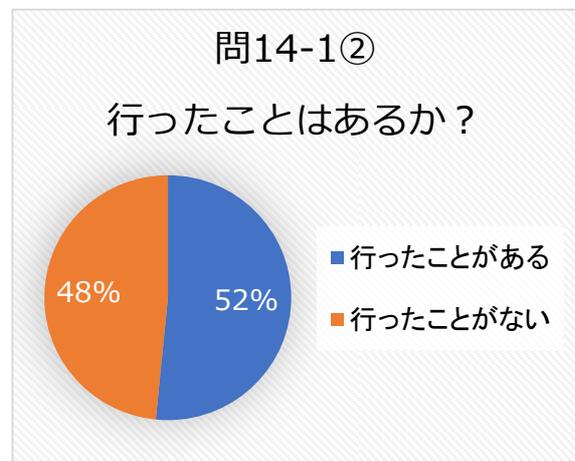
問14-1①	人数
農産物販売所を知っているか？	
1.知っている	336
2.知らない	41
総計	377



「知っている」と回答された方へ、実際に行ったことはあるか？を質問した。

約半数の方が「行ったことがある」と答えているが、以降の質問にある「来客者」「出品」が少ないという課題が改善することで、「行ったことがある」割合は大きく増加すると思われる。

問14-1② 農産物販売所に行ったことはあるか？	人数
行ったことがある	116
行ったことがない	109
総計	225



## b 農産物販売所への来客数増加のアイデア

問 14-2 来客者が少ない状況です。来客者を増やす方法がありましたら、お書きください。

全体の35%以上が情報発信・宣伝の強化・工夫に関するものであった。続いて商品の品ぞろえや価格について多く上がっていた。

他に注目したいのは、売り場への意見である。「階段をのぼるのが大変なので行けない」といった高齢者からの意見や、ふれあいセンターでの軽食や休憩コーナーなど気軽に休めるとよい、などの付加価値による効果を提案する意見が見られたことである。

※以下一部抜粋。「結果報告書\_記述式回答一覧」をご参照ください。

No.	問14-2 来客者を増やす方法(一部抜粋)
1.	観光バスを停める
2.	アスレチック設備等小さな子供が興味を持つ場所に少しずつ変える。
3.	入りやすいつくりにする必要がある。商品がみえない。
4.	ふれあいセンター内での食事の提供等、農産物だけだと、寄りづらい。
5.	会館の中の利用。喫茶店。駐車場の利用。農産物販売以外にも何かあれば良い。
6.	広報(無線)を使って呼びかける。
7.	他県から来られた方に、開いている曜日を伝える(また、よってもらえるかも)。
8.	一か月予定を小さな紙に印刷して置くとか。
9.	道路に近いところが良い(何を売っているかわかるため)。
10.	食彩館も毎日来客が多いわけではありません。イベント告知、お盆時期で混雑しています。イベント告知方法(販売所だけのイベントでは)を考えないといけないかも。上路のそば祭りもその時期だけ来客が多いです。
11.	階段を上るのが大変だと思います。場所を工夫して足の悪い人でも気軽に立ち寄れる所…
12.	バス停を作ったらと思います
13.	SNS 等で発信する。影響力のある人がフォローする、してもらう。(500 から 600 人くらいのフォロワーを持つ人)営業日に毎日アップ。
14.	野菜を増やす。他の地区にも早川産の野菜だということをアピールする。ふれあいセンターでサークル、教室みたいなのをして人に来てもらう。
15.	小さい子供がいるのでついつい子育て目線ですが、館内も開放、食べ物持ち込み可で休憩ができることや、曜日限定でおにぎりや味噌汁お弁当などの販売もあると、お昼ご飯を挟んでゆっくりできて。ママ達と待ち合わせておしゃべり交流ができて素敵！！

## c 農産物販売所の出品数の増加についてのアイデア

問 14-3 農産物の出品が少ない状況です。出品を増やす方法がありましたら、お書きください。

大変多様な意見があった。その中で多かった意見としては、より広い対象に分かりやすく出品依頼を続ける、という依頼強化についてであった(全体の2割)。

続いて、扱う商品の多様化(上早川ならではのもの・食品だけでなくアクセサリーや雑貨なども)、出品条件のさらなる自由化、そして集荷(出品する野菜などを集めて回る)などであった。

他にも、出品コーナーの前の階段を苦にする意見もいくつか見られ、様々な世代の視点から貴重な意見をいただけたと感じる。

※以下一部抜粋。「結果報告書\_記述式回答一覧」をご参照ください。

No.	問14-3 出品を増やす方法(一部抜粋)
1.	住民は自由に出品できるように。登録制とかでなくて。参加の仕方をシンプルに。参加方法を定期的に周知し続ける。
2.	農産物だけではなく、手芸品や手作りのアクセサリーなども一緒に出品したらどうでしょう？(服なども OK とか)
3.	出品できることを知りませんでした。出品者にもっと利益が出るシステムだと良いのでは？
4.	若手の農業者が少なく活気がないので若者の活躍を望む
5.	農業の会社経営化
6.	持ち込みできない人へ集荷に回る
7.	出品したくても、そこまで持っていけない人が多いと思うので、曜日を決めて回収するとか、出品して入金が入る喜びを(無記名で)ほこんたけ通信にものせてほしい。
8.	誰でも自由に、気軽に、持っていける雰囲気がほしい。
9.	限られた人だけが出品しているように思っている人が多いと思いますので、誰でもが少しでも出せることを PR する必要があると思います。
10.	自分の家で余り気味の野菜でも無駄にしないで小遣いに変えるよう取り組んでもらう。
11.	出品の仕方や、出品へのハードルが高くないことを伝えていく。
12.	出品の材料を使つての(料理の紹介等と)一口メモに
13.	商品を写真(絵)等で地区民に紹介してみてもは。何を出していいか迷っている方も「これなら私もできる」と思えるかも。
14.	知っている人が少ないので周知する

## ② 憩いの場創設事業について

### 【事業の目標】

人、物及び情報が集まる場所ができている(誰でも気軽に立ち寄り、軽食をしながら情報交換ができるサロンのような場所)。

### a やげやまの里ふれあいセンターでのイベントを知っているか？ 参加したことがあるか？

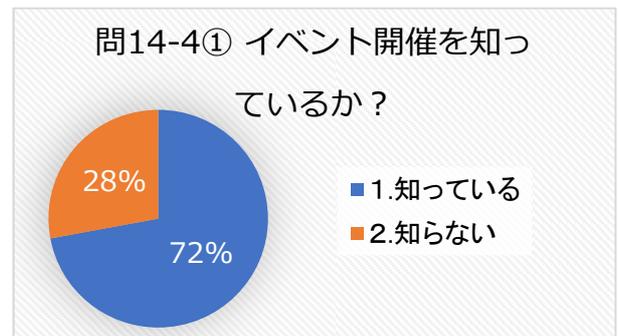
焼山の里ふれあいセンターで四季に応じたイベント(春よ来い in 上早川、ライスボール祭り、メリークリスマス in 上早川、ひな祭り in 上早川等)や、ピザ作り体験を開催しています。

問 14-4 イベントの開催をご存知ですか。

7割を超える方が「知っている」と回答しており、市の広報や「ほこんたけ通信」で周知しているとはいえ、イベントの認知度としては高いといえる。

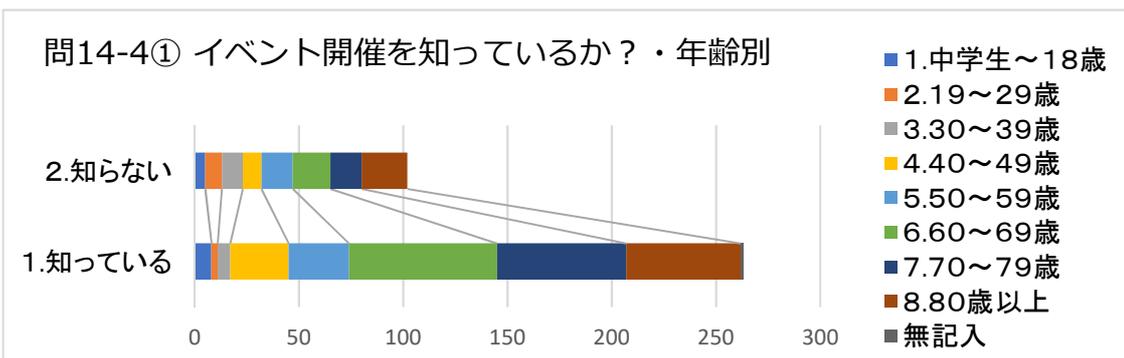
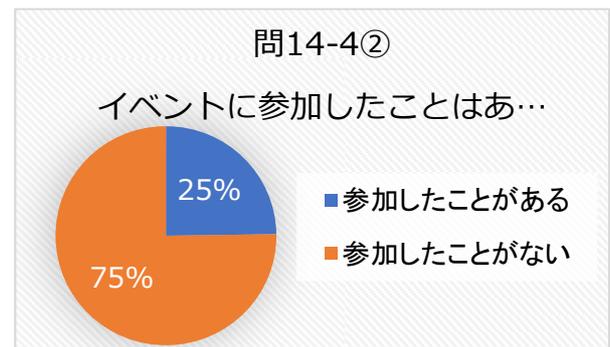
注目すべきは、年齢別でみたときに、19歳～39歳の世代で「知らない」の割合が多いことである。イベントの周知方法を再検討する必要があるかもしれない。

問 14-4① イベント開催を知っているか？	人数
1.知っている	263
2.知らない	102
総計	365



イベント開催を「知っている」方を対象に、参加したことがあるか？を質問した。大きく「参加したことがない」割合が占める結果となった。世代間での違いはない。

問 14-4② イベントに参加したことはあるか？	人数
参加したことがある	51
参加したことがない	155
総計	206



## b 参加してみたい催し

問 14-5 参加してみたい催しものがありましたら、お書きください。

四季を通した既存のイベントへの参加要望と、新しく興味のある催しの要望が半々となっている。

ジビエを活用したケモノ汁祭り等、上早川地区の特徴になりえるアイデアや、食べ物系だけでなく、手芸や書道、民謡などの集まりを希望する声も見られる。

集まった要望の中には、農産物販売強化事業との密接な連携が効果的なものも多い。

イベントに集まってもらうための方策は、全国どこの地域活動でも共通の悩みであり、近道はないが、ここでの質問や、本アンケートを通して集まった様々な意見が、貴重なヒントになっていると思われる。

本事業の目的である「人、物及び情報が集まる場所ができ、誰でも気軽に立ち寄り、軽食をしながら情報交換ができる沙龙的な場所」実現に向けて活用していただきたい。

※以下一部抜粋。「結果報告書\_記述式回答一覧」をご参照ください。

No.	問14-5 参加してみたい催し(一部抜粋)
1.	ライスボール祭り
2.	メリークリスマス in 上早川
3.	ケモノ祭 上早川無料のシカ汁とクマ汁とイノシシ汁大会
4.	都合がつかぎり参加したいと思います。ライスボール祭り参加したい。
5.	バーベキューの会
6.	上早川ケモノ汁祭。3種比べ。無料。
7.	そば作り体験・そば祭り
8.	ピザ作り体験
9.	書道など、この年になってのし袋に書く字を習いたいと常に思っています。
10.	体験活動
11.	手芸の講習会
12.	健康体操(ストレッチ、エクササイズ)、民謡(全身動かすので体操になる)
13.	憩いの場には四季を通じて参加しています。ありがとうございます。
14.	ひな祭り、クリスマスのイベント
15.	ハイキング(体験型)
16.	調理系(子供と一緒に参加できるとありがたい)※お昼ご飯の調理(佐藤さんのスモークチーズ作り楽しかったです。子供と一緒に餃子作りもよかったです)。
17.	ハンドメイド(子供と一緒に参加できるとありがたい)
18.	体調が現状に戻ったら健康体操に参加したい
19.	ライスボール祭り

### c 参加しやすい曜日・時間帯

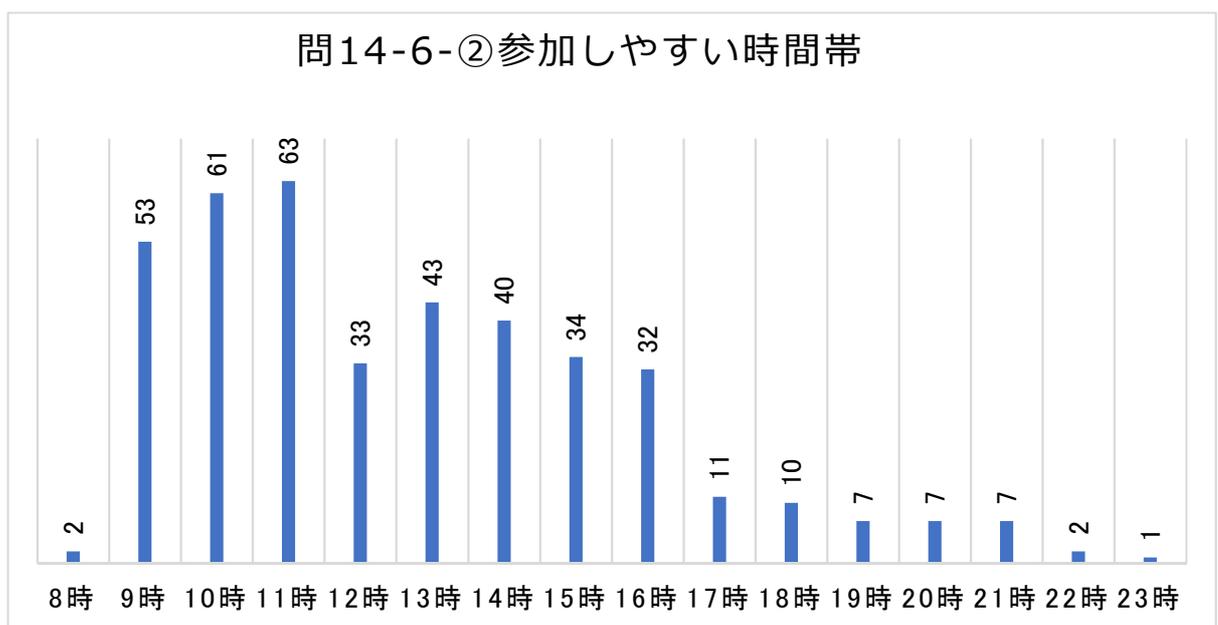
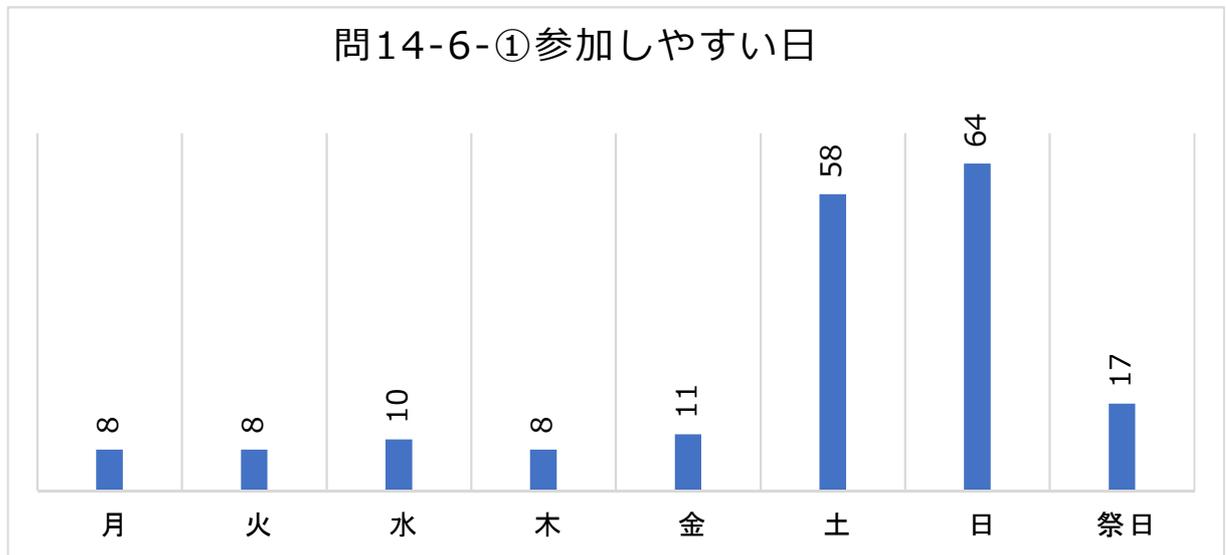
問 14-6 催しものに参加しやすい曜日と時間帯がありましたら、お書きください。

曜日では圧倒的に土曜日、日曜日があげられた。※その他記入欄には「農作業のない冬期」「多くの人が決まって出る日はのぞく(例、金、運動日)」「第三日曜日」などの記入があった。

時間帯では午前、昼、午後が多かった。日中は平日、土、日ともに仕事がある方からは「21時以降」や「夜」といった回答もあった。その他記入欄には「参加したいと思えば合わせる」といった回答もあった。

以上を合わせると、「土日の日中」が最も参加しやすいことになる。

これらの情報を参考にしながら、時には参加者層の違いを考慮しての夜のイベントを試みるのも良いのではないか。



### ③ 情報発信事業

#### 【事業の目標】

地区住民参加型の広報機関が組織され、地区の情報を地区内外に継続かつ定期的に発信したい。

#### a ほこんたけ通信を知っているか？ 読んだことはあるか？

上早川地区の情報紙として「ほこんたけ通信」を月2回発行しています。また、インターネットを活用したホームページや Blog、Facebook でも情報発信をしています。

問 14-7 ほこんたけ通信をご存知ですか。

9割の方が知っているという回答している。地域広報誌としての認知度は十分にあると思われる。

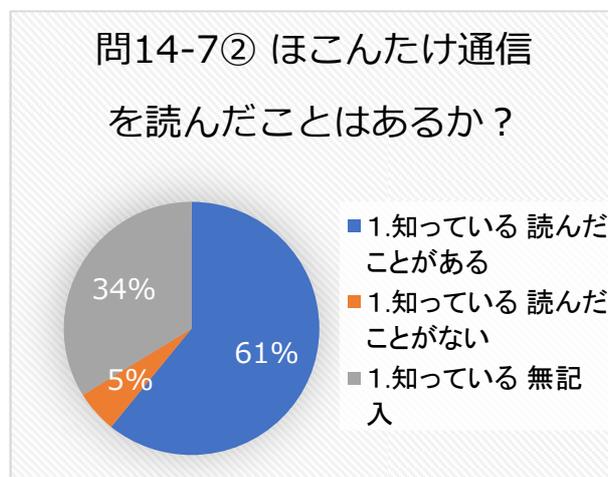
問 14-7① ほこんたけ通信を知っているか？	人数
1.知っている	355
2.知らない	39
総計	394



読んだことがある割合6割を超えている。地域の情報発信手段としてさらに活用していくことが重要だと思われる。

※アンケート票では「知っている」に丸を付けて、読んだことの有無には無記入のものが多数(120件)あった。これらの多くは「読んだことがある」と想定される。その場合は9割の方が「読んだことがある」となる。

問 14-7② ほこんたけ通信を読んだことはあるか？	人数
読んだことがある	216
読んだことがない	19
無記入	120
総計	355



## b 読んでみたい記事

問 14-8 読んでみたい記事がありましたら、お書きください。

読んでみたい記事の質問であったが、「毎回楽しみにしている」「上早川のことがいろいろわかって良い」などの好意的な感想が大変多かった。

また、既存コーナーである「上早川びと」「歴史と伝説」についても楽しみにしているといった感想、評価が多かった。

読んでみたい記事としては「地元の人のこと」「地元の料理」「ペット」「花、景色などの地元の自然」「地元の行政」などが記載されており、もっと地元の事を広く知りたいという回答者の想いが伝わってくる。

地元の広報誌としての定着は成功していると思われ、地域広報誌としてより発展的な方向に進んでいけたら、と思われる。

※以下一部抜粋。「結果報告書\_記述式回答一覧」をご参照ください。

No.	問14-8 読んでみたい記事(一部抜粋)
1.	「上早川びと」が大好きです。皆さんの日々暮らしてきた事が自分の生活の中にもできる事があるのではと興味あります。
2.	旬の野菜を使ったとってもおいしいレシピ。コンニャクの作り方 etc
3.	面白い景色→ウワサになるような。
4.	地元の人から、色々の状況報告を楽しみにしています。
5.	今咲きの花
6.	上早川産の野菜を使った簡単にできる料理
7.	色んな事言いたくてしょうがない人がたくさんいると思います。ちょっと聞いてよコーナーなんかを設けて載せて欲しい。公民館におたより箱をもうけて誰でも入れられるように。(無記名で)。単純なことでも 例) (今の季節。落ち葉が落ちて迷惑だ。頭にくる。)なんて。
8.	上早川のことは何でも知りたいです。
9.	我が家のニュース(畑でとれた野菜。飼っているペット等々…)
10.	知恵袋のような、日常活用できるものの記事。
11.	上早川の動き(行政、行事)
12.	こんなことを楽しんでいます、こんな技術や趣味があります、等心豊かに人生を送っている方の紹介は？
13.	屋号の由来
14.	頑張っている若者紹介
15.	大正、昭和一桁の人の昔話。上早川今昔
16.	木島勉氏のコーナーを期待しています

## ④ プラン 資源物回収事業

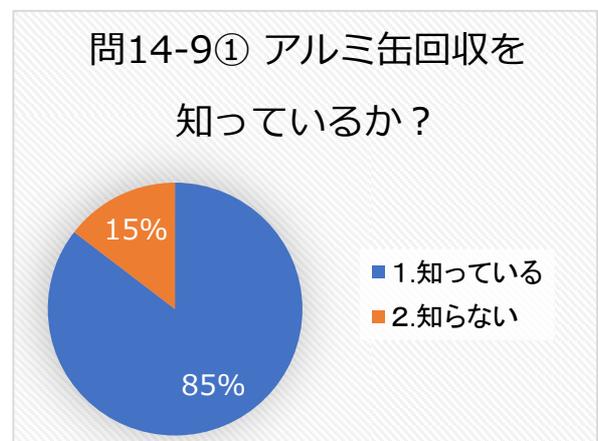
### a アルミ缶回収の取り組み

上早川地区内7か所（越、公民館、ふれあいセンター、中野、土倉、湯川内、北山）にアルミ缶回収袋を設置して、地域づくりプランの自主財源の確保に努めています。

問 14-9 アルミ缶回収の取組をご存知ですか。

アルミ缶回収活動を知っている人が8割を超え、十分な認知されていることがわかる。若い世代では「知らない」という割合も大きく、中学生～18歳の世代では半々となっているが、世代が上がるにつれて「知っている」割合は高まり、60代では実に97%という、ほとんどの人が知っているという状況になっている。

問 14-9① アルミ缶回収を知っているか？	人数
1.知っている	340
2.知らない	58
総計	398

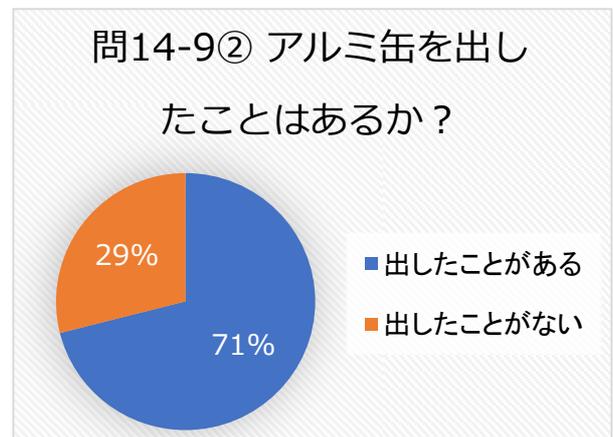


回収協力をしたことが「ある」人の割合は「知っている」人の割合よりは少ないが、それでも十分な実績だと思われる。世代別にみると、中学生～18歳は「出したことがない」割合のほうが多いが、それ以降の世代はすべて「出したことがある」人が大きく上回る。

80歳以上の世代になると、60代、70代の方より「出したことがない」割合がまたふえるのであるが、これは次項の設問で見られるように、回収場所まで持って行くことが難しくなるためだと思われる。

若い世代、高齢者の世代の人たちがより回収協力しやすくなる工夫次第では、回収率が増える可能性が高いのではないか。

問 14-9② アルミ缶を出したことはあるか？	人数
出したことがある	167
出したことがない	68
総計	235



## b 資源物回収事業-意見

問 14-10 アルミ缶回収に望むことがありましたら、お書きください。

現在、糸魚川市内でもアルミ缶回収事業は多くの地区で実施されている。上早川地区においても、かなり事業が定着していることは、前述の設問でもみてきた。

本設問はより効果的に実施していくためのヒントを探るために設けた。

最も多くを占めたものは、要望ではなく、この事業に対する評価であった。「良いことだと思う」といった記述が全体の3割となっていた。

要望としては大きく2つに集約された。「回収環境改善」(回収場所が遠いことによる場所増設、集めて回ってほしい、等)と「活動の周知強化」(ゴミ収集所にたくさん見られるので事業自体をもっと周知して協力者を増やす)についてである。効果が期待できる具体的な提案も多かった。

上早川地区の住民の回収協力に対する意欲は高く、今後も地区活動の収入源として事業を発展していけると思われる。

※以下一部抜粋。「結果報告書\_記述式回答一覧」をご参照ください。

No.	問14-10 資源物回収事業-意見(一部抜粋)
1.	良いことです
2.	強風の時に缶が飛ばされてしまう時がある。
3.	地区のごみ回収場所(市の指定)にステッカー等を張り、アルミ缶はここに出してくださいみたいに書いて張っておく。集落の会議等(慰労会)の後は皆さんにアルミ缶の出し方を伝えてください。
4.	設置場所を増やしてほしい。
5.	アルミ缶だけでなく鉄くずなどやってみては。
6.	変形アルミも回収よしとする様をお願いします。金缶も回収するとなおさらよし。
7.	回収して得た収益の用途を鮮明にしないと不審に思う人が必ずいるので、そのへんをしっかりとの方が良いと思います。
8.	缶の置き場に何の置き場かと目的を書いた看板を付け見目をよくする。
9.	もっと近いところが良い。歩いて行けるところ。
10.	財源にしていたコトは知りませんでした。すみません。
11.	トンパックの受け代を単管ではなく、何か工夫した受け台に。
12.	玄関に出して置いたら回収してくれるなら出します。
13.	私の村にありませんから
14.	各家庭を回る方が回収率が高いと思います
15.	ゴミ出し場に行くときまだまだ廃棄物で出されている
16.	少しでも地域の収入源になるとうれしい
17.	資源回収の面でも大変良い事

## (11) 上早川地区の活性化についての自由回答

### ① 上早川地区の活性化全般について（問15：自由回答）

問15 上早川地区の活性化などについて、ご意見がありましたら、お書きください。

様々な視点で、日ごろ地域について感じていることを率直に書いていただいた回答が多かった。実際の文面（一部）は以降でご確認いただくが、はじめに概要を紹介する。

キーワードは「各世代で集まる機会・場」「一部ではなく上早川みんなでやる」「施設有効活用」「行事・役の負担は限界」「閉鎖的から脱却・地区外交流・情報発信」等。

これらに関連づけて、大きく分類すると以下ようになる。

### みんなで集まろう・話そう

#### 「各世代一緒に集まる機会・場」

「会話をしたい」「みんなで話し合いたい」「伝統や技術を年配の方からききたい」「意見をきいてほしい」

#### 「施設有効活用」

「ふれあいセンターもつとにぎやかに」「ふれあいセンターにバス停」「旧上小を食堂、体験施設に」「焼山温泉跡を共同浴場」

#### 「みんなでやる」

「一部でなく上早川みんなで力を合わせる」「全体として取り組める体制」「全員で楽しみたい」

### 行事・役員負担抜本改革

#### 「行事、役の負担が限界」

「人数少なく行事や組織多い」「役の負担偏り心苦しい」「労力パンク 新しいことできない」「一度やると抜けられない」「若い人いなくなる」

### 地域を開く

#### 「人・物・情報オープン」

「閉鎖的な所があるからオープンに」「県外にPRして、移住者を増やす」「まだまだ良い所を発信できていない」

少数ではあるが「ジビエ」「農産物販売の工夫」「県道の妙高への貫通」などや、イベントに行く手段のない高齢者からは「送迎」の要望も複数件あった。

本設問に書いていただいた内容はすべて貴重なヒントである。ぜひ活用していただきたい。次ページに全体の3分の1ほどであるが、実際の回答を紹介する。

※以下一部抜粋。「結果報告書\_記述式回答一覧」をご参照ください。

### 上早川地区の活性化についての意見①（一部抜粋）

かかし祭りをやめてほしい。何日も前から集まり、仕事を休むわけにもいかず、とっても苦痛。各割当てで強制的…やるのなら、やりたい人だけ募集してやってほしい。

(～省略～)人がいないのに行事や組織が減らず、すぐに役が回ってくる。支館の役などは一度するとなかなか抜けられない。年々やれる人がいなくて地域の役もすぐに回ってくる。60～70代中心の今、この世代が状況を(行事、組織、役のスリム化、合併、統合など)変えないと若い世代はいなくなる。

常識ある人なら、上早川で使用していない土地・建物等を上早川地区以外の人に使用してもらったらどうか。

まだまだ上早川地区の良い所を発信できていないと思います。もっといろいろな人に知ってもらうには工夫を凝らした呼びかけが必要だと思います。例えばポスターでもいいし事業の一つでもある「ほこんたけ通信」でもやれることはまだまだあると思います。今の意見がうまくいけば上早川地区はもっと活性化できると思います。

クマ、イノシシ肉のジビエとか。

夜間道路を明るくする為、反射テープでデザインしてはどうだろうか。

いろんなイベントを行っていますが、早川以外から人を集めたりしないと早川人だけだと人口もどんどん減って負担が増えたりします。上早川は閉鎖的な所があるから、もっとオープンにした方がいいと思います。

各自が自分の好きなこと、楽しいと思うことをせいっぱいやれば良いと思います。

人が少なくなってきた中でそれぞれの地区の仕事が多いと思う。そこへイベントの参加は大変だと思う。例として第一日曜は上早川地区全体でイベントデーとか、昔の野休みみたいに皆さんが休める日にしてみる。集落ごとで交換会みたいな。また、その集落で違うとは思いますが、区長の交代が早いと思うので、1期(2年)とか副区長が次期行うとか考えてほしい。

農村公園の空き地にドッグラン、グランドゴルフ、コスモス畑、ひまわり畑等。

アンケートとは異なりますが、小部落の合併、しいては上下の合併。

無理ない程度で老人たちでできる何かがあれば…

上早川小学校は利用できないみたいですので、ふれあいセンターをもっともつとにぎやかになる様に、人が集まりやすく、人の出入りが多くなるには公民館が一緒ではだめですか？ぜひ考えて見て下さい。

上早川地区民を対象にして年2回くらい、希望者で旅行をして絆を深めていく。日帰り又は1泊2日程度で。実現は難しいですかね。

共同浴場(公衆浴場) 焼山温泉のあと地

たくさん行事があっても、とにかく忙しいので参加する時間がない。今の3、4、50代くらいの方は仕事や子育てで、とにかく時間が無いです。あまり負担があっては困ります。それから負担がかたよっている現状も心苦しいです。

## 上早川地区の活性化についての意見②（一部抜粋）

ふれあいセンターに市場ある時だけでもバスちょっととめていただきませんか。足のない年よりはちよつとつらい、行きたいけど1度も行ったことなし。

文化祭に輪投げは良かったと思う。皆さんを家から出るように皆さんと楽しむことが良いと思います。

活性化について、このような取り組みをしていただき申し訳ない気持ちです。上早川地区は役を受けると、ずーっと役から抜けられず、同じ人が続けなければならない悪い状況です。皆が皆盛り上がるような、地域、集団になればいいなと考えます。上早川 SMILE'S

県外(都会)の人たちとの交流。

ノミネーション

耕作放棄地にソーラー発電基地の誘致を

経済的に豊かになる、若者が増える、いろんな活性化があるが、どういう状況が発生しているのか定義が曖昧。個人的には自分なりに勝手に活性化していつまでも楽しく暮らしたい。

現在の上早川があるのは公民館の方、振興会の方が骨身惜しまず動いてくださっているからだと思いますがどこかに無理はないでしょうか。上早川を大好きなので住み続けたいと思っていますが、私ともに体と頭もついていかず活性化への考えは浮かびません。(～省略～)

人々が減る中で長年続く行事(人足、祭りなども含む)を維持することは特定の個人の大きな負担になっていると思います。それに加えて新たな取り組みを行うことは労力のバランスが既にパンクしているように思います。規模の大幅な縮小や何かを止めなければ新しいものを生み出すのは厳しくなっていると考えます。

今温泉がひとつになり目玉になる施設が少ない。能生のひだまりのように足を運んでくれるような場所があればいい。上小跡地の話がストップしたが、例えば建物の中に食堂を作ったり、お土産(味噌等加工品)販売のお店を出す等。活性化に繋がるかどうかは地域性だと思う。

各集落も過疎化している状態で、どんな事業を取り組んでも途中で終わる様は現状ではないでしょうか。公民館中心ではあるが、その前に支館それぞれの考え方でまとまりのある方向へ進むのでは…。高齢者に向き合う考えが欲しいとも思うのですが…

昔から受け継がれてきた職人さんからたくさん教えていただきたい。料理だったり、道具だったり、伝統工芸だったり、お年寄りが元気で若い人たちも子供連れでわいわいと集まってできたら楽しいでしょうね。他の地区からでも参加可能だと同世代の友達も誘いやすいなあ。

ある程度年齢のいっている方は経験も豊富のことと思いますが、だからこそ会議を持って皆さんの意見を十分に聞いてください。一人の考えだけで決して地域の大切なことを決めてもらいたくないです。

### 3 まとめと分析

#### (1) アンケート結果の整理と分析

##### はじめに

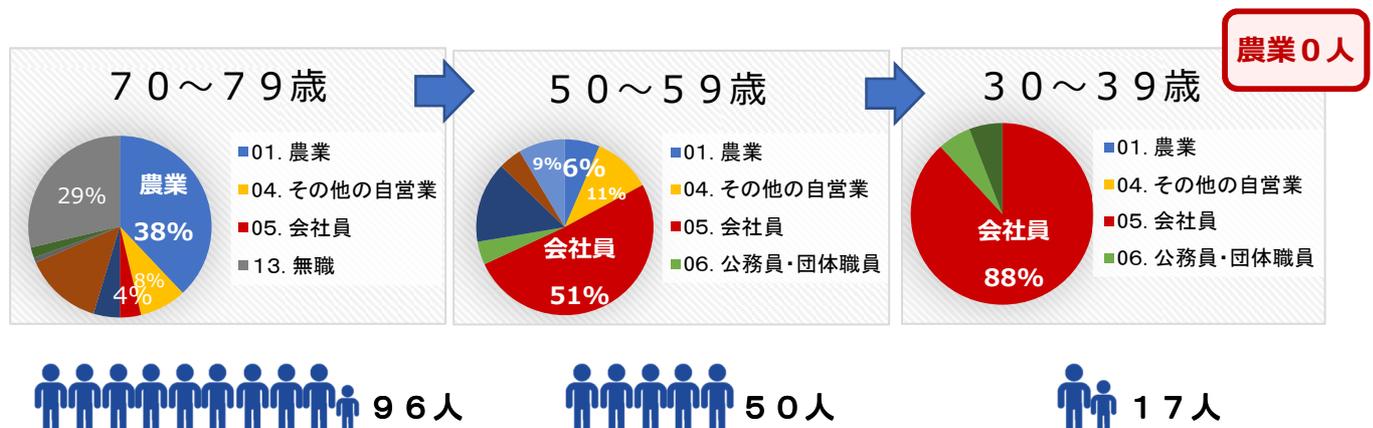
今回のアンケート結果では、上早川地区としての特徴が明確に現れた。昨年(2019年2月)に同じ早川谷である下早川地区の中学生以上アンケートを実施している。下早川地区のときは、当時すでに実施済であった西海谷、根知谷の結果と比較して早川谷としての特徴がはっきりと現れる結果であった。今回は、その時の特徴が、さらに色濃く、より大きく目立つ形で出てきている。この点からも、本アンケートは成功しているといえるだろう。

##### 基本情報から

それでは、さっそく集計結果を順に振り返ってみたい。

問1から問5までの回答者(地域住民)の基本構成から注目される事は、上早川地区で生まれ育った方々の割合が76%という大変高い率であること。これは他では見られない割合である。次に、職業として農業従事者が一番多い(無職を除く)ことも、他地区では見られない大きな特徴である(市内他地域では中山間地でも「会社員」が一番となっている)。暮らしについての満足度の高さ(「満足していない」割合の低さ)も同様に特徴的である。上早川地区は、「地元内の定着割合」「農業従事率」「暮らし満足度」が他と比較して非常に高い地域であるといえる。

そして心にとめるべき点が急激な人口減少である。この点は市内他地域でも同様の問題を抱えている。問1の年齢設問の結果に驚いた方も多いと思うが、急激な減少がこれから来る。60代・70代はそれぞれ100人ほどいるが、40代・50代は各50人以下、20代・30代では各20人以下となる。10年単位でガクンと減り続けることが確定している。



農業従事者急減、会社員が大多数に。そして地区人口は激減。

もう一点、問3(居住地区)から見えてくるのは、4つの支館の人口の差が非常に大きくなっていることである。4支館体制維持の妥当性検討を促す結果となっている。今回は集落ごとの人口は出ていないが、集落間の人口差も同様に非常に大きいことも留意しておく必要がある。

### 情報源について

問6はみなさんの情報源についての問いであった。1の「テレビ・ラジオ」、2の「新聞・折込広告」、3の「市の広報」、は順当であり予想通りだと思われる。しかし、5の上早川地区広報誌である「ほこんたけ通信」がここまで情報源としてあげられていることはうれしい誤算であろう。地元の広報誌が浸透することは、地域活動において非常に有効なツールをもっているということである。4の「利用している SNS」については別設問も設けて詳しく問うた。最も使用者の多い Line、Facebook などはスマホ使用者には定番のツールでもあり、今後の地域内情報共有の手段としても積極的に活用したい。

### 現在の活動・行事等に対して

さて、問1から問5までで明らかになった上早川地区の3つの特徴「地元内の定着割合」「農業従事率」「暮らし満足度」。これらがこれだけ高いということは、気心が知れ、食は豊であり、日々の生活の安心感があり、郷土愛の強さにつながる。その一方、切羽詰まった危機感を感じられない傾向を持ち、大きくかつ速い、現在の社会環境の変化に対応していくことが苦手な地域であるともいえるのではないか。そのことによる問題の顕在化はすでに、以降の設問の結果においても現れている。

問7の行事参加状況については、あまり参加してない割合が4割あり、その理由は働き世代による「仕事で忙しい」との意見が多くを占めている。農業従事者のほとんどが60代以降であることを考慮すると、今後は会社勤めの方の割合が一気に増加して、ますます行事参加が難しくなっていく。

さらに問8の地域行事・活動についての自由意見では、働き盛りの現役世代である40代～69歳の住民から、行事・役(集落・支館・消防団等)への負担を訴える声が数多く見られた。これらの負担に対する不満や改善要望は全国の中山間地でみられることであるが、上早川地区は職業割合の世代間の大きな違いや、人口減少傾向が特別に早いことから、猶予のない問題である。

### 不安・困りごと

問9は、今後の幅広い地域活動の方針を決める上での重要な設問である。市内でも多くの地域では、不安、困りごとの一位は「雪に関するもの」(今回は「3. 除雪作業など冬の生活に関すること」がそれにあたる)になることが多い。上早川地区でも予想通り、1位に「3. 除雪作業など冬の生活に関すること」があがり、2位に「4. 農地、山林の維持管

理に関すること」がきている。しかし、ここまで明確に3位以降と圧倒的な差がでることは他では見られない。これもまた、上早川地区ならではの大きな特徴である。

その他の自由記入欄では「消防団」についての言及が複数あった。「消防団」については各設問の回答欄でも散見される。これらの記述内容を読むと、若者にとっての負担・不安ではあるが、地域全体で対応していく必要性を強く感じる。

## 若い世代はどう見ているか

問10, 11は若者が上早川地区に住み続けるか、について当事者である若者と、その保護者の方々に質問したものである。結果は大変厳しいものとなった。市内他地域での結果はいずれも「住み続けたい」「住んでもらいたい」が多かったが、上早川では、「住み続けたくない」「住んでもらいたくないと思わない」の割合が明らかに多かった。しかも、保護者の方々がこれほどまでに自分の子供たちに「上早川に住んでもらいたくないと思わない」と思っておられるという事実は大きな衝撃として受け止められるものである。

なぜ、「暮らしに満足しているか？」の質問には「満足している」割合が「満足していない」の2倍も多いにも関わらず、このような結果になるのか。この点が非常に重要な課題解決のカギになると思われる。幸いにも、その理由を書いていた方が多く、その内容も示唆に富む。ぜひ一つ一つを読み込んでいただきたい。

## 見どころ・スポット（場所）

問12の上早川地区の見どころ・スポット（場所）の問いでは、「自然」「温泉」が非常に多く、中でも「山」については自然の景観とは別に明記する回答が多い。地元の人にとって、上早川地区の魅力は大きく2つ「山・自然」「温泉」であると言えるだろう。

具体的な場所としては、下早川地区の人々にとっての「月不見の池」（下早川の宝）と同じ位置づけで、上早川の人々にとっては「焼山」「温泉」があげられるのではないかと回答を見ていて強く感じた。

## 早川の合併統合

問13はデリケートなテーマである下早川地区との合併についてである。

結果紹介で見た通り、「賛成する」が「賛成しない」を3倍ほど上回っている。そして「わからない」「無記入」が60%近くを占める。これは何を意味するか。多くの住民の方が、これまではっきりと下早川地区との合併統合を問われる機会はなかったのではないかと。

本設問により、皆さんが生まれ育った上早川をどういう地域にしていきたいのか、改めて考えるきっかけになり、地元上早川について無意識化されているものが意識化されることが大切だと思われる。

## 地域づくりプラン

問14は地域づくりプランの各事業についての認識状況やご意見をいただく問いであった。各事業ともに5年間継続してきている。この「継続すること」の大変さは、実際にやってきた方々にしかわからない。計画をたて、ここまでやられてきたことは、上早川地区の将来を見据えていくうえで、貴重な明るい材料の一つである。

さて、まずは**農産物販売所強化事業**であるが、認知度は十分なレベルに達していると思われる。残り1年はぜひ事業目標である「地区住民が収入を得る」ことに最大限に集中して活動をしてみたい。来客数・出品数増加のための自由回答意見は、そのためのヒントに溢れている。

**憩いの場創設事業**は、認知度と参加度の差が大きく、イベント実施の難しさがあらわれている。こちらも原点にもどって、「誰でも」「気軽に」集まる場所、という事業目標から活動してみたいかであろうか。「誰でも」「気軽に」は大変重要なキーワードであるが、それを実現するヒントは設問の「参加してみたい催し」や「参加しやすい日時」についての回答だけでなく、本アンケートの回答全体から得られるように思われる。そして、問15の自由意見にたくさん書かれている「(一部の人だけでなく)みんなで・全員で」集まれる場としても、この事業が大切な役割を担えるのではないだろうか。

**情報発信事業**は順調に進んでおり、当初の目標をほぼ達成しているように思われる。今後は「読んでみたい記事」の回答を参考に、内容を多様化し、地域の広報誌として、そして上早川地域活動を続けていくうえで、最も重要なツールの一つとして事業を進めていただきたい。本アンケートで顕在化しているいくつかの課題の解決においても、本事業の情報発信・共有能力がなくてはならないものとなるであろう。

**資源物回収事業**では、住民の認知度の高さと、高評価の多さに目を見張るものがあった。自由意見においても回収に対する意欲の高さがうかがえるものが多い。本事業は、地域が発展していくための重要な要素である「全員参加意識」「収入」の面でも大変有効である。今回の設問や結果報告を通して、さらに認知度があがり、行動する人も増えると期待される。

## 上早川地区についての意見（自由記入）

最後の問いは、全設問中最も記述量が多い結果となっているが、ぜひ全回答をじっくりと繰り返し読んでいただきたいと願うものである。

当設問結果の分析は、前述の内容紹介の中で図式にして示したので、ここでは割愛するが、今の上早川地区についての切実な思い、読んでいだけで楽しくなる提案、ズシリと鋭い指摘や批判、心の叫び…本音の数々。本当に貴重な内容であり、価値ある結果となっていると思われる。本報告書で紹介しているのは3分の1程度に限られるが、すべての回答を讀んでみると、「このような様々な思いを持っている人たちで上早川地域はできているのだな」と元気がでてくると思う。

## (2) 全体を通して

今回のアンケート結果は、上早川地区に住むみなさんが日頃感じている考え、意見を公に集めることのできた、価値あるものであった。上早川地区の本当の姿・特徴を客観的にデータにより把握することができた。そして、アンケートの目的の一つであった地域づくりプランの今後の指針作りのヒントとしても十分な成果を得ることができた。

同時に、もう一刻の猶予もない、地区の維持のために解決していくべき課題もはっきりとみることができたのではないだろうか。活動・行事に対する意見や、若い世代が住み続けるか？への回答。これらから読み取れる課題は、最後の上早川地区への意見(問16)で「みんなで集まりたい・話したい」「行事・役員負担抜本改革」「地域を開く」という3つの大きなテーマ(課題)に集約された。そして、それら課題と地域づくりプラン各事業の活動内容との合致度、関連性の多さに驚く。これまでやってきたプランの活動は実は上早川地区の実態に、相当程度合ったものだと考えられる。あと必要なのは、もっと「みんなで」力を合わせることなのではないだろうか。

以上、大変収穫の多かった今回の結果を、私たち住民全体の共有事項としてしっかり認識し、これからの上早川地区をみんなで話し合い、行動するきっかけにしたい。

また、ここで繰り返しをお願いとなるが、ぜひ多くの方々に自由記入設問のすべての回答をまとめた「結果報告書 記述式回答一覧」に目を通していただきたい。きっと、心を動かされ、行動につながる刺激を受けられる。

最後に、お忙しい中、記述式の多いアンケートにご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。私たち全員が一丸となって、よりよい上早川地区にしていきたいと思います。

以上

上早川地区 中学生以上住民アンケート 結果報告書  
令和2年1月17日

上早川地域振興会  
上早川地区地域づくりプラン実行委員会  
事務局：上早川地区公民館  
〒941-1205 新潟県糸魚川市大字土塩 977-4  
電話番号/025-559-2002 FAX/025-559-2002  
[kamiko@bz04.plala.or.jp](mailto:kamiko@bz04.plala.or.jp)

© 2020 上早川地域振興会

